



写真1 港で見た過去のドックの場所

のことを教えてくれた。姜 明采さんは松本先生と会うときの通訳をしてくれて、その後も個人的に会って、日本の近代建築に関する話をしてくれた。内田青蔵先生も研究の方針を決めるのに一役買ってくださった。成田さんを含む事務室のスタッフは、私の生活と研究に集中できるように物心両面で支援してくださった。感謝の気持ちをお返しする機会もなく帰ってきたのが申し訳ないほど、あらゆる方面の方々に助けていただいた。関わってくれたすべての方に対し、感謝の気持ちでいっぱいである。

発表当日、それまで考えがまとまっていなかった、日本文学史の争点について質問を受けたことを思い出す。興味深い質問だったが、私は韓国文学研究者として、正確な答えを示すことはできなかった。私はよく分からないと答えた後、そのような問題は、後で、日本の近代文学研究者がより詳細な研究を行ってほしいと述べた。すると、フランス文学を研究する参加者が私に提案した。

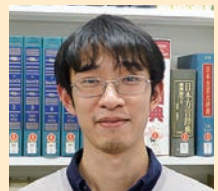


写真2 客船を運行する今の横浜埠頭

韓国人が日本文化を研究して、日本人が韓国文化を研究するのも良いことだという言葉だった。フランス研究者らが、自分たちを占領統治していたドイツの文化についてもっと意味のある研究を行うことができた、という点を彼は指摘した。韓国の研究者たちが自分たちの視点で日本文学を研究し、日本の研究者が自分たちの視点で韓国の文学について研究したときに、両国の学界の発展に貢献するだろう、という言葉だった。私はその言葉を聞いて心から反省した。今までそう考えたことがなかったためである。国籍も韓国籍であり、専攻も韓国文学なので、日本でされている研究は、私に関連のないものと考えてことが多かった。しかし韓国と日本は、過去から現在に至るまでの間、地理、歴史、経済的な側面で密接な関係にあった。それだけに両国の研究者が交流を図れば、お互いの研究に役立つ面がたくさんあると思う。私はこの機会に多くのことを学び、今後も機会があれば、日本の研究者たちとの交流を続けたい。

## 朱舜水研究紀行

朱 子昊  
(浙江工商大学)



今回の日本の旅で、私は主に優れた儒者である朱舜水の一連の非文字資料に関連する研究を行いました。今回の研究では、神奈川大学非文字資料研究センターの皆様のご指導とご協力のおかげで、予定していた研究訪問計画を完遂しただけでなく、予想以上のうれしいサポートを得ました。特に、センター長の内田青蔵教授と小熊誠教授に感謝したいと思います。また、事務室の成田紅音さんやセンターの先生が私の研究や生活における様々な

問題を解決し、調査研究に便宜をはかってくださいましたことに対しても感謝申し上げます。さらに、チューターの華雪梅さんには資料収集に協力してもらって順調に今回の研究を完成させることができ、感謝しています。

朱舜水は、中国の明朝末期に日本に亡命した儒学大師です。日本には朱舜水に関する豊富な資料が残っていますが、それに対して中国ではほとんど残っていません。したがって、私はこれらの資料を収集するために日本に



左から小熊教授、筆者、内田教授

来たのです。数多くの筆談資料だけでなく、朱舜水が残したいくつかの礼学に関する図と文章の資料も含んでいます。

最初に日本での調査スケジュールを作成したとき、私はもともと尊経閣文庫、東京大学、国立国会図書館、国文学研究資料館などに行く予定でいました。東京のエリアで知られている朱舜水の関連資料は、その大部分が前述の四つの図書館に保管されています。準備段階で、尊経閣文庫には朱舜水の弟子の五十川剛伯が先生のために整理した『明朱徵君集』という文集を所蔵していることが分かりました。この文集は朱舜水の最初の文集でもあります。現在知られている『明朱徵君集』の写本は尊経閣文庫館内のみの閲覧となっているため、尊経閣文庫が私の日本の旅で最初に訪れるべき場所であり、最も重要な場所であると感じていました。

しかし、尊経閣文庫の訪問申請や訪問者の資格に対する厳しい利用条件を予想していなかったため、尊経閣文庫の調査はキャンセルせざるを得ませんでした。幸い、小熊誠教授から、神奈川大学図書館にも朱舜水の一部の文献資料が所蔵されていて、中でも徳川光圀が編纂した『舜水先生文集』の付録には、『明朱徵君集』が収録されていると教えていただいたおかげで、尊経閣文庫に行くことができないという残念さを埋め合わせることができました。最終的に今回の日本の旅は、やり遂げたと感じることができました。

神奈川大学図書館のほか、東京大学、国立国会図書館、国文学研究資料館、湯島聖堂等を訪れました。東京大学のキャンパスで、私は朱舜水の墓碑を参拝しました。碑の正面には「朱舜水先生終焉之地」という墓標があり、裏には「明治四十五年六月二日建之 朱舜水記念會」と

いう文字が刻まれています。国立国会図書館では、朱舜水に関する日本の学者の著述を閲覧しました。例を挙げると、松本純郎の『水戸学の源流』、石原道博の『明末清初日本乞師の研究』などです。東京大学の朱舜水の墓碑



国文学研究資料館では、『明舜水先生話説』、『舜水遺書』、『朱舜水招聘問答記』などの著作が見つかりました。湯島聖堂は、徳川光圀が朱舜水の描いた孔廟構図図によって建てたと伝えられており、今回私は幸いにも見学することができました。しかし残念なことに、朱舜水の描いた孔廟構図図によって建てられた直接の証拠は見つかりませんでした。『舜水朱氏談綺』に記載された孔廟構図図は、湯島聖堂の構造と細部に食い違いが見られました。

神奈川大学非文字資料研究センターの先生方のサポートのおかげで、私は今回の朱舜水研究考察を順調に完成させ、多くの資料を集めることができました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます！



湯島聖堂